



成果指標				
成果指標	当該年度実績／前年度実績×100			
指標設定の考え方	年々増加する農林作物被害額の増加に鑑み、前年度捕獲実績に対する当該年度捕獲実績を測定することにより、事業効果を測る。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	100%以上	100%以上	0	0
実績	105.9%	103.6%	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	上乗せ補助に係る制度周知は概ね完了し、事業効果も伺えていることから、今後とも実施時の精査・指導に努め、より効果を高める事業推進に努めるのみである。なお、新年度において、農業振興センター鳥獣害担当者会による新たなモデル地区の設定や支援の徹底・周知等住民意識の高揚に努めるとともに、より総合的な対策を実施するため捕獲隊を一部包括した実施隊の創設に努める必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	国の緊急捕獲対策事業と合わせて実施したことで、捕獲・駆除実績も上がり、農作物被害低減効果も現れてきており、引き続き事業を推進する必要がある。捕獲単価の見直しによる経費節減効果も現れている。なお、次年度においては、国が推進する「鳥獣被害対策実施隊」の設置に向け、猟友会の協力を得ながら取組みを進めていく必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	行政評価委員会による外部評価抽出事業につき、外部評価に付する。

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<p>・成果指標の動物の捕獲実績比較も大事だと思うのだが、農作物の被害額の方がより分かりやすいのではないかと。いろいろな専門用語があり、理解しがたい箇所がところどころにある。もう少しやさしい表現にしたい。・このような施策を通じて、狩猟をするメンバーを増やすことに焦点を当てた事業が必要ではないか。・鳥獣ベースの被害額は市民に教えていただく必要がある。成果指標のまとめ方は不十分であり、その内容をお考えいただきたい。・シートは記述も大変分かりやすく、指標もしっかりと書かれていると思う。・猟友会に対する補助が目的となっているが、高齢化により捕獲者が減少している問題をしっかりと解決しない。・獣肉処理加工など、捕るだけでなく、地域の資源として循環する仕組みを考える上での計画も大事だと思う。・猟友会に対する補助事業ではあるが、事業の根本は有害鳥獣をどうバランスよく駆除するかということなので、実施隊の組織の中に、その道の専門家が1人や2人いても良いと思う。動物癖の分かるような人を無理のない範囲で加味いただきたい。</p>
---------------------------	---

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>現状のまま継続する。</p>
<p>意見、課題</p>	